



# 大日倉庫安全ニュース(配送版)

配送版3号

(発行日)

2015年6月2日

(発行元)

大日倉庫(株)

まもなく、1年中で最も降雨量の多い季節がやってきます。

雨が多くなるこの時期は、自動車を利用する機会が増え、交通渋滞や視界不良による事故が多発する時期です。

雨の日は特に、次の3点に特に注意して安全運転を心がけましょう。

## 走行中、雨による被害や事故にあわないために！

### ■梅雨時に備えた車両の点検■

#### ①タイヤの摩耗

溝のすり減ったタイヤは減速時に制動距離が長くなり、非常に危険です。溝の深さが1.6mm未満のタイヤは使用できません。また、高速道路ではトラックバスは3.2mm、小型トラックは2.4mm、乗用車は1.6mmが摩耗限度です。

点検時にタイヤの溝が少なくなっているようでしたら、本格的な梅雨時期となる前に交換しておきましょう。

#### ②ワイパーブレードゴムの摩耗

ワイパーブレードゴムの摩耗は、視界を妨げ危険です。

雨粒の拭き残しや筋が目立ってきたら交換のサインです。適正な新品と交換しましょう。

### ■車間距離を大きくとる・スピードを出さない■

晴天時に比べ湿潤路は制動距離が伸びるため、前車との車間距離を長くとるよう心がけましょう。

また、雨の日の自損事故の原因の75%を占めるのが「スピード超過」によるものです。

カーブの手前などでは意識して十分減速するようにして下さい。

### ■エアコン（デフロスタ）とライトを積極的に活用する■

雨の日は、昼間でも薄暗く視界も狭くなりがちです。また、歩行者は傘をさしているため車の接近に気づかないことがあります。たとえ昼間でも「暗いな」と感じたら、迷わずライトを点灯しましょう。

「自分は見えているから大丈夫」ではなく、相手が自車認識しやすいようにするためです。

視界の確保、適切な室温の維持のために、エアコン（デフロスタ）を活用しましょう。

★最後に、雨の日に安全運転を行うには「心と時間に余裕を持つ事」

も大切です。渋滞も発生しやすくなるため、出発前に余裕をもった

スケジューリングをするよう心がけましょう★